「レポート」
指点字を開発したコミュ力の高い令子さんに感謝
令和 6 年 10 月 30 日
神山順・智さんより少し年下の外科医

今回、智さんの登場で今までの乃木坂スクールの講義中一番の衝撃を受けました。

私の人生の中で、個人的にまた仕事上で出会う方に、全盲の方や聾唖者の方はおられ、それぞれにコミュニケーションを取る方法があり、あまり困った経験はありませんでした。

今回初めて盲聾者の方とお会いしました。

健常であった方が、障害に陥っていき全く外界からの情報が得られなくなる。想像を絶する恐怖であったろうと思います。私も最近、糖尿病性の白内障が半年で急速に進行して、右目がほとんど視力を失い、慌てて名医を探して手術し、視力を回復してもらった経験から、情報が入ってこなくなる恐怖、それだけでない色々な不安に慄きました。

ドキュメンタリーで紹介してくださったお二人の生き方を見て、いろんな不安や恐怖を克服して人生を歩まれる姿、それを可能にした智さんはじめ支援者の方の努力に感激しました。私も医療者として宣告するだけではなく、その後を支えることのできる医者になりたいと改めて思った次第です。

今回あまり話題にならないことでしたが、というより情報力の高いみなさんはすでにご存知だったのだと思いますが、指点字を開発したお母様の令子さんのことが、非常に気になったのです。91 歳で今でもお元気でお過ごしとのこと、嬉しく思いました。お母様とのことは映画にもなっているのですね。

コミュニケーションが取れなくなった息子との会話に指点字を考えついた、その発想の柔軟さと根気良さは見習わないといけないと思いました。中学生時代にボランティアで点字翻訳をした経験があるのですが、長続きせず、成果も出せないまま終わってしまいました。大学生時代には手話の勉強をしましたが、これも完成せずのままでした。今日の講義でまたチャレンジする勇気をもらった気がします。

私は今、地区医師会で情報担当理事として、会員に色々な情報伝達を行う役をしています。通信手段としてファックス、電話、メール、ホームページ、医療用ＳＮＳ、アマチュア無線などを駆使しますが、災害時の通信手段についても考えることがあります。これからは障がい者の方にも伝える手段を合わせて考えて行かなければと思いました。

智さんにはこれからも障がい者と外界をつなぐ希望の星として輝き続けていただきたいと思います。今後もコミュ力を培う方法を、いろいろ教えてください。よろしくお願いいたします。